

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について 「学習者主体の授業」の提案 ～令和5年度鹿児島県学習定着度調査を活用して（社会）～

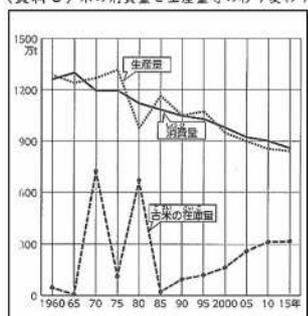
義務教育課

調査を振り返って（小学校）

令和6年1月に実施した鹿児島県学習定着度調査の結果では、「知識・技能」の平均通過率は64.6%、「思考・判断・表現」の平均通過率は66.6%でした。
「知識・技能」の問題については、「土地利用の様子を読み取る問題」や「八方位を問う問題」などに課題が見られました。児童が学習内容を相互に関連付けながら、社会的事象の意味を説明したり、まとめたりする活動を大切にすることで、児童の理解は深まっています。
「思考・判断・表現」の問題については、「雨温図の特徴を説明する問題」や「米の消費量を増やすための取組について、資料から読み取り、自分の言葉で説明する問題」などに課題が見られました。資料を丁寧に読み取り、読み取った事実に基づいて考察し、表現する学習活動を繰り返すことが大切です。

特徴ある問題から【小5 3】(3)

（資料3）米の消費量と生産量等の移り変わり



（資料4）国の取組を伝える新聞記事

「やっぱりごはんでしょ！」
農業の関係者の取組を応援するため、国は「やっぱりごはんでしょ！」運動を平成30年10月から開始しました。インターネット上で、米に関するイベントや季節の行事、産地の情報など様々な情報を発信しています。

（資料5）鹿児島市の取組を伝える新聞記事

米粉に注目！
米粉の活用セミナー 鹿児島市
米の消費量が年々減少する中、注目が集まっているのが「米粉」です。米粉からできたおかしもあるということで、そのほば広い活用方法を知ってもらおうというセミナーが鹿児島市で開催されました。このセミナーには、様々な市町村の農業関係者などおよそ80人が参加しました。

〔問い〕資料4と資料5は、国や鹿児島市などが行っている取組を取り上げた新聞記事です。国や鹿児島市などは、なぜこのような取組を行っているのでしょうか。資料3を参考にして、その理由を書きましょう。

〔解答例〕米の消費量が減っているため、米の消費量を増やすため。（同意可）
〔平均通過率〕56.5%
〔無解答率〕5.1%

課題の原因

- 全国的に米の消費量が減少していることや古米の在庫量が増加していることを知っているが、それらの要因や国・自治体の対応、生産者の取組、消費者の取組などを関連付けて理解することができていない。
- グラフの読み取りが十分にできていない。
- グラフで読み取った事実と資料の関係を整理し、表現することができていない。



「全国の米の消費量が減っている」ことを教師が説明するだけの授業になっていませんか？

授業づくりのポイント

- 1 問題解決的な学習の充実を図り、児童が問いを主体的に追究する過程を大切にしましょう。
 - 学習問題を設定し、資料の読み取った事実や解釈したことを話し合うなどの学習活動を通して、その解決を目指す学習過程を構想することが大切です。
 - 左記の（資料3）は学習全体を貫いて活用できる資料です。例えば、導入では、（資料3）を基に、「なぜ、米の生産量や消費量が減っているのだろう」、「なぜ、古米の在庫量は増えているのだろう」などの学習問題を設定し、教科書や教師が準備した資料、児童が自ら探した資料を基に調べていきます。
 - 展開では、例えば、調べたことや（資料3）を基に、生産量と消費量、在庫量の関係を考察します。また、（資料4）や（資料5）を基に、国や市、消費者などの取組をまとめます。
 - 終末では、例えば、学習問題の答えについて、（資料3）を示しながら、自分の答えを説明する活動を設けます。
- 2 「グラフの読み取り」に関する指導を丁寧に行いましょう。
 - 表題の3点に着目します。
→タイトル、年度、出典
 - 単位の2点に着目します。
→縦軸の単位、横軸の単位
 - 変化の5点に着目します。
→段々上がる、段々下がる、突然上がる、突然下がる、変わらない
- 3 学習問題の答えを自分の言葉で書く、発表する活動を継続して行いましょう。

グラフの傾向を読み取り、そのようになった原因や理由、背景などを考える学習活動を行いましょう。



調査を振り返って（中学校）

令和6年1月に実施した鹿児島学習定着度調査の結果では、「知識・技能」の平均通過率は中1：54.4%，中2：60.6%，「思考・判断・表現」の平均通過率は中1：57.3%，中2：65.5%でした。

「知識・技能」の問題については、写真と説明から用語「フィヨルド」を答える問題（中1）、「江戸時代の改革が行われた歴史的背景を捉え、松平定信による寛政の改革の内容を選択する問題」（中2）などに課題が見られました。今後、生徒が学習内容を相互に関連付けて、社会的事象の意味を説明したり、まとめたりする学習活動をより一層重視する必要があります。

「思考・判断・表現」の問題については、「荘園の成り立ちの過程を説明する問題」（中1）や「イエズス会がアジアに進出した理由を説明する問題」（中2）などに課題が見られました。今後、資料から読み取った事実を基に、社会的事象の背景や原因等を考察し、表現する学習活動の充実が欠かせません。

特徴ある問題から①【中1 3 (1)】

(1) 地図中の②の海岸などで見られる、氷河によって削られてできた資料1のような奥行きのある複雑な湾や入り江を何とというか、答えなさい。
(資料1)



〔解答〕
フィヨルド
〔平均正答率〕
40.6%
〔無解答率〕
19.3%

■ 誤答例
リアス海岸
カルデラ など

課題の原因

用語について、意味内容を伴った理解ができていない。文字的に覚える状況になっていると考えられる。

授業づくりのポイント

具体的な事象と関連付けたり、類似した事象と比較したりして、イメージ豊かに意味内容を捉えさせるようにしましょう。

- 教師だけがイメージ豊かに捉えていて、生徒には言葉で説明し、文字的に捉えさせていることはないでしょうか。
- 授業では、動画等も活用しながら、「フィヨルド」が「どのような地形か（定義）」、「どのようにして発達したのか（成因）」、「人々は地形をどのように利用しているか」、「どの辺りに広がっているか（分布）」、「リアス海岸などの類似した地形との違いは何か」などの問いを基に学習することで、文字的に「知る」段階から、意味内容を伴って「分かる」段階へ高まっていきます。



用語の理解には、類似した事象との比較が有効です。

例えば、「砂丘」の学習では

- ・ 砂丘の読み方は何ですか。
 - ・ 砂丘はどのような特色をもった土地ですか。
 - ・ 砂丘と砂漠はどのような点が違っているのでしょうか。
- などの問いを活用しましょう。

特徴ある問題から②【中2 4 (2)】

(略年表)

国内		国外	
1467年	応仁の乱が起こる。	1498年	①がインド航路を発見する。…A ルターが宗教改革を始める。…B カルバンが宗教改革を始める。…C
1543年	ポルトガル人が鉄砲を伝える。	1517年	
1549年	ザビエルが日本に来航する。…C	1541年	
1575年	織田信長が長篠の戦いで武田勝頼を破る。…D		
1590年	豊臣秀吉が全国統一をする。…E		
1592年	豊臣秀吉が朝鮮侵略を始める。…F		

〔問い〕略年表中のBについて、カトリック教会では、免罪符を販売したり、務めを果たさない聖職者もいたりしたため、西ヨーロッパで宗教改革が起こった。その後、略年表中Cのように、カトリック教会の中心であったイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本に来航した目的を、「プロテスタント」、「アジア」の二つの語句を用いて説明しなさい。

〔解答例〕

宗教改革でプロテスタントと対立したカトリック教会が、アジアでキリスト教を広めることで勢力を回復しようとしたから。（同意可）

〔平均正答率〕43.6% 〔無解答率〕12.0%

課題の原因

歴史的事象間の関連（原因と結果の関係など）について理解できていない。

授業づくりのポイント

- 1 単元を見通した授業をデザインしましょう。
教科書の内容を順序よく扱う学習では、歴史的事象どうしのつながりを理解することは困難です。授業は単元で構想し、「ヨーロッパ人の来航は、当時の社会にどのような影響を与えたのだろうか」のような単元を貫く学習課題の解決をめざした学習計画を設定しましょう。
- 2 時代の変化につながる歴史的事象について、「なぜ、そのように変化したのか」を考察し、自分の言葉で説明する学習活動を行いましょう。
「なぜ、ザビエルは来日したのだろうか」などの問いについて、歴史的事象の因果関係に着目し、様々な事象を関連付けて説明する学習を大切にしましょう。